

平成30年度第1回 さいたま市大宮盆栽美術館運営委員会  
会議録

日時 平成30年7月10日(火)  
午後2時から  
場所 大宮盆栽美術館2階 講座室

【次第】

1 委嘱状交付式

- (1) 開会
- (2) 委嘱状の交付
- (3) スポーツ文化局長の挨拶
- (4) 委員の紹介
- (5) 閉会

2 さいたま市大宮盆栽美術館運営委員会

- (1) 開会
- (2) 委員長及び副委員長の選出
- (3) 議事
  - (ア) 報告事項

① 平成29年度大宮盆栽美術館の事業実績について

【資料1】大宮盆栽美術館 年報 第8号

(イ) 審議事項

① 平成30年度大宮盆栽美術館の事業計画について

【資料2】平成30年度大宮盆栽美術館事業計画

【資料3】秋季特別展「シリーズ・現代の盆栽作家Ⅱ 木村正彦ー あそびの領分」

【資料4】春季特別展「国風盆栽展への軌跡(仮称)」

【資料5】企画展「夏休み子どもぼんさい美術館」

【資料6】さいたま国際盆栽アカデミーの事業計画

(ウ) その他

(4) 閉会

## 【会議内容】

公開とすることとする。なお、傍聴人は無し。

### 1 委員長及び副委員長の選出

### 2 報告事項

(ア) ① 平成29年度大宮盆栽美術館の事業実績について  
年報を中心に事務局より報告。

#### 【質疑】

委員： さいたま国際盆栽アカデミーは後継者育成を当初の目的として発足したものであるが、期待できる人材はいるのか。

事務局： 中級コース修了者の中で賛同していただける方には「盆栽文化普及サポーター」を担っていただき、今年度は当館のボランティアスタッフとして、大宮盆栽美術館に関することや盆栽に関することについて、さらに勉強をしていただいている。中には、仕事をされているにも関わらず、予定を調整して研修に参加していただいている方もおり、普及という観点からは、いい人材が育っていると感じている。なお、後継者という観点で言えば、まだまだその域には達しておらず、継続していくことで、将来の人材を育てていきたいと考えている。

委員： 年報の写真をみると女性が多いように見受けられるが、いかがか。

事務局： 今年度だと、全てのクラスで女性の割合が大きい。

委員： 管理官に伺いたいですが、このままだと外国人や女性が多くなりそうな気がしており、プロとして活動していきたいという人材が集まるのは期待できないのか。

事務局： アカデミーは始まってまだ日が浅い。プロになるには、専門の施設が必要である。現状は趣味を深めるためのようなものであり、今後、検討していきたいと考えている。土日以外での開催も検討していきたい。なお、外国人を受け入れるに当たっては、食事や宿泊などの問題が出てくる。東京都内にある春花園でも、外国人を受け入れているアカデミーがある。

委員： 春花園でやっているアカデミーより、美術館でやっているアカデミーの方が文化面で力を入れているように感じる。

事務局： 盆栽の愛好家がいってもプロはいない地域があるが、大宮にはプロがいる。現在の家には庭が無い。また、家庭環境の変化や社会環境の変化に応じて盆栽も変化していく必要がある。美術館でやっているアカデミーがそのいい事例になるといいと考えている。ただし、それは美術館単独では難しいことであり、プロである大宮の盆栽園と連携して推進していく必要がある。

### 3 審議事項

(イ) ① 平成30年度大宮盆栽美術館の事業計画について

資料2～資料6を基に、各事項について事務局より説明。

全ての事項について承認。

## 【質疑】

### (1) 秋季特別展「シリーズ・現代の盆栽作家Ⅱ 木村正彦—あそびの領分」

委員： 創作盆栽とはどういうものか

事務局： 石付きや寄せ植えなどに代表される。形状的には様々なものがあり、個性が表現しやすい。

委員： 非常に多彩な事業を行っており、年々充実しているように感じる。特別展については、タイトルの付け方について、一般の人に理解がしやすく、もう少し工夫があってもよいのではないか。秋季特別展で言えば、「木村正彦の美学—あそびの領分」とすると分かりやすくなると思われる。また、サブタイトルなどを利用して、初公開の一位の超大型盆栽を前面に出してもいい。展示の内容についても、藤樹園出身というのは今回が初めて知ったが、師匠や弟子などの木村氏に連なる人を取り上げて面白い。

春季特別展については、「美術となった盆栽の歴史」というタイトルにすると、盆栽が美術と認められるまでにどういう経緯があったかを表現したタイトルになると思う。

事務局： 一般の方に受入れやすいというのは非常に重要なことである。

タイトルの付け方については、よりシンプルでわかりやすいものにしたいと考えている。「あそびの領分」という表現をきっかけに、「どういうことなのか?」と思わせるきっかけになると考えている。

木村氏に関連する人物として、修行時代に切磋琢磨した人物や木村氏のお弟子さんなどがいるが、どんな人だったのかについて寄稿を書いてもらえないかを検討しているところである。木村氏の人物像を浮かび上がらせたい。

春季特別展の「国風盆栽展」という言葉は固い印象がある。美術になった経緯を掘り下げたいと考えており、参考にさせていただく。

委員： 盆栽アカデミーのカリキュラムは、美術館で用意するのではなく、受講者と議論しながら検討するのか。また、受講者は一般公募ではなく、ターゲットとなる人を探すのか。また、トライアル講座の動画はどのように活用していくのか。トライアル講座のカリキュラムは受講者の希望か。

事務局： 受講者については、一般公募を含め、両方必要だと考えている。また、カリキュラムについては、基本的にはこちらで用意する予定であるが、こういったニーズがあるのが、ターゲットとなる人に調査していきたいと考えている。

動画については、2月のプロモーションで活用するほか、アカデミーのイメージを醸成させるようなものを作り、データとして持ち運びができるようにし、様々な場面で活用したいと考えている。

委員： 外国人については、在住とそうでない人を区別するのか。

事務局： 在住は、盆栽を持ち帰れる方、日本語が理解できる方を想定している。

委員： 各特別展について、図録は作らないのか。また紀要を作成していないのはなぜか。

事務局： 図録は各特別展で作成する予定である。また、夏休み子どもぼんさい美術館では、学習ノートを発行する。秋季は盆栽の画像を中心に掲載して16ページほどの厚さで薄いものを予定しており、春季は60～70ページほどのものを考えている。

紀要については、第2号までは、「年報・紀要」としていたが、現状は展覧会の数が多く手一杯の状況であり、「年報」のみとしている。

ただし、平成25年からは年2回の特別展を開催しており、歴史系の特別展の図録では論文を掲載している。今後現状からもう一段階発展させることで、各学芸員の発表の場となる紀要の発行を今後検討していきたい。

委員： 盆栽の美術館として、盆栽を扱う意味を検証することは非常に重要なことである。春季特別展については、盆栽は美術であるということが、どこまで一般化しているのか明確ではなく、挑戦的な展覧会になると思われ、理論武装が必要になるだろう。

事務局： 一般的に美術と結びつかない人もいると思われるが、美術館という場所に飾られるということに、どういう意味があったのか、歴史を通して掘り下げたい。

委員： 夏休み子ども盆栽美術館のワークショップへの応募は今年も多いのか。

事務局： 既に200人近くの応募をいただいております、順調に推移しています。

委員： シリーズ化できる「現代の盆栽家」は何人くらいいるのか。

事務局： シリーズとして長い間開催できるくらいの人数はいる。東日本大震災が発生してから10年後の年であれば、東北の盆栽家を取り上げるなど、開催年に見合った盆栽家を取り上げ、盆栽には作り手がいるということを明確に打ち出していきたい。

#### (ウ) その他

##### 【質疑】

委員： 日本人来館者及び外国人来館者の属性はどうか。また、外国人来館者が盆栽美術館とあわせてどういった所に訪問しているか。

事務局： 来館者に任意でアンケートしたデータに基づいてお答えすると、日本人は、女性が若干多く、50代以上の方で約半分、電車利用の方が半数おり車利用は約3割。外国人については、男性が少し多く、ツアーではなく個人で来館している人が9割と圧倒的、40代までの方で7割を占める。外国人来館者の美術館滞在期間は平均して1時間くらいであり、移動先については、大宮盆栽村をセットに来館している人が多数であるが、さいたま市は宿泊施設が少なく、東京都内を訪問する人が多いと思われる。

今年度、市の観光国際課により、市内施設来訪者への動向調査を実施しており、当館もその調査地点の一つになっている。調査結果を今後の事業に活用していきたい。

委員： アンケートに、要望などの記載があれば教えていただきたい。

事務局： 記述式の項目があり、「カフェのような休憩場所を作してほしい」「ミュージアムグッズをより充実してほしい」という要望をいただいている。外国人で言えば「Wi-Fiの整備」についての要望が多くある。なお、Wi-Fiについては、今年の夏以降に整備する予定である。

委員： 日本人の滞在場所はどうか。美術館のみ訪問しており、大宮盆栽村のことを知らないという話も耳にする。地図はもちろんだが、盆栽村や氷川神社などさらに広範囲での魅力を発信するパンフレットも必要であり、制作に関して所管課の問題もあるだろうが、美術館が核となって準備をしてもらいたい。

事務局： 地図については、市民の方が作っているものがあり、活用している。市民の自主製作のため、公共施設では掲載が難しい飲食店なども掲載されている。都内の観光案内所やホテルコンシェルジュなどにプロモーションに行くと、盆栽村の地図は非常に喜ばれ、エリアとして紹介することは非常に重要であると感じている。大宮盆栽村から、氷川神社などさらに広い範囲でのPRもしていきたい。

なお、パンフレットについては、(公社)さいたま観光国際協会が今年度作成すると聞いており、活用したいと考えている。

委員： 盆栽村の地図については、美術館に来てから手に入るだけでなく、外での配付やウェブサイトへの掲載などの検討も重要である。

委員： JR東日本では「駅からハイキング」という回遊性を生む事業をやっており、大いに活用していただきたい。

#### 4 閉 会